

# 女性応援プロジェクト ～がんばれ県北地区の女性たち～

教育・研究

ボランティア

地域交流

代表者：大学院理工学研究科 1年 滝沢 惟

## 連携先

日立市女性センター、カフェ結+1、日立女性フォーラム、めいくティック、中島美那子（茨城キリスト教大学講師）、樫村自子（保育士）、にしのひとみ(CATVパーソナリティー)、大部由香、畠山美奈子、赤津典生、岡田忠、ひたちの国・志塾

升元 つぐみ（工学部3年）  
村井 千容（工学部3年）  
村田 みづ穂（工学部3年）  
森下 真衣（工学部3年）  
折原 花菜（工学部2年）  
重藤 めぐみ（工学部2年）  
津野田 依子（工学部2年）

## 顧問教員

米倉 達広（工学部 教授）

## 参加者

伊藤 慎吾（大学院理工学研究科2年）  
小林 勇作（大学院理工学研究科2年）  
辻 和孝（大学院理工学研究科2年）  
須藤 恵（大学院理工学研究科1年）  
滝沢 惟（大学院理工学研究科1年）  
堀越 朋世（大学院理工学研究科1年）  
六條 真琴（大学院理工学研究科1年）  
大貫 佑（工学部4年）  
神戸 あゆ美（工学部4年）  
趙 亮（工学部4年）  
仲澤 依里（工学部4年）  
福地 彩（工学部4年）  
箕輪 優一（工学部4年）  
荒井 悠有（工学部3年）  
笠井 崇宏（工学部3年）  
清水 麻衣子（工学部3年）  
高木 真（工学部3年）

## プロジェクトの申請内容

2011年3月に発生した東日本大震災により被災した地域の人々はライフラインを断たれ、情報の入手が困難な状況に陥った。被災者が必要とした情報は、地域の被害状況、今後の見通し、給水場所等のライフラインに関する、地域情報であったことが当プロジェクトの調査より得られた（図1）。地域情報を入手するには、住民同士での会話が最も容易な手段であった（ヒアリング調査から）。今回の震災を通じて、多くの地域住民が地域コミュニティ等による地域ネットワークの重要性・必要性を感じた。今年度で2年目となる本プロジェクトでは、「地域の絆」をキーワードに、災害に強いまちづくりを含めた、県北地区の地域活性化を目指す。



図1：災害時の情報取得内容の割合

## ◆プロジェクト概要

[目的] 県北地区の地域活性化

[今年度の目標]

- ・地域イベント等による地域住民同士の交流
- ・県北地区に住む女性のネットワーキング力の向上
- ・対象地域の広域化
- ・地域メディアへの露出による認知度の向上
- ・地域団体との連携イベント開催
- ・地域コミュニティ同士のコネクティング

地域情報の流通には、女性のネットワークが大きく影響すると考えている。今回のアンケート調査からも、情報交換を行う相手が多いのは女性であることが明確となった(図2)。幅広い世代の女性たちの交流によって、それぞれの世代が保有する地域情報の共有が期待できる。しかしながら、県北地区では女性のための交流、情報交換の場が不足しており、地域情報の入手が困難な状況にある。そこで、茨城県北地区の女性たちへ、女性共通の不安や悩みの要素である①人脈づくり②子育て③キャリアアップに対する支援を行い、「女性のネットワーキング力」を向上させる。これにより、女性による地域活性化を図る。さらに昨年度の活動から、女子学生が将来の自分、具体的には「子育てと仕事の両立」に不安を抱いていることがわかった。従って、この活動を通して我々学生と地域住民との交流を深め、地域と密接に関わっていききたいと考えている。

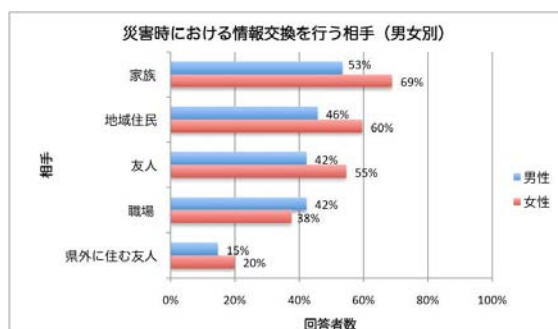


図2：災害時における情報交換を行う相手（男女別）

## ◆本年度の活動

昨年度の活動から、地域住民が望むイベント内容や有効な告知方法等の声を聞くことができた。それだけでなく、様々な自治体や地域団体とネットワークを築くことができた。これら得たものを活かし、本年度では効率的かつ幅広い活動を行う。既に行っている活動として、5月には、常陸太田市生涯学習センターでソーシャルメディアを地域ネットワークづくりに活用してもらうためSNS講座を開催した。加えて、地域の現状を知るため、情報格差が顕著に表れた東日本大震災において、地域住民による情報取得・発信方法について、茨城県内でアンケート調査を行った。今後は、昨年好評だった女性応援フェアを引き続き実施する等、様々な地域活動を行う予定である。さらに、各イベントの協力者・参加者の方々全てに参加していただけるようなイベントを開催し、参加者同士を結ぶことで、女性ネットワークの強化を図る。この活動を通じて、地域の女性を総合的に支援し、地域活性化に繋げる。

## ◆期待される成果

主に以下の2つが挙げられる。

- ①イベントの開催によって、地域住民同士、また学生と地域住民の間に、情報交換の場ができる。このような手段で地域ネットワークの形成・強化を図ることにより、住民同士がより密接に関わっていける地域づくりが可能になる。
- ②本プロジェクト活動を活発に行うことで、周辺地域の注目を集めることができ、周辺地域への連鎖的な地域活性化活動の拡がりが見込める。

## プロジェクトの実施概要

県北地区の地域活性化を目的とし、様々な活動やイベントを通し、①人脈づくり②子育て③キャリアアップを柱に様々な活動や女性応援のイベントを行ってきた。

▼主な活動内容

①地域の現状調査	対象地域の女性の諸問題（ネットワーク、子育て、キャリアアップ）に関する調査
②防災支援	東日本大震災直後の情報取得に関する調査
③SNS講座	ソーシャルメディア利用促進
④地域イベント参加	既存の地域イベントへの参加による現状調査とPR
⑤地域イベント企画	地域イベント「女性応援フェア」を企画し交流の場を提供



「女性センター祭り2011」への参加の様子

▼実施内容

月	内容
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SNS講座 in 常陸太田（5月末まで、全3回）</li> <li>・災害情報取得に関するアンケートの作成</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャンドルナイトへのボランティア参加</li> <li>・災害情報取得に関するアンケートの収集（11月まで）</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「がんばろう!高萩!!復興支援市 in イオン高萩」への参加</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SNS講座 in 常陸太田（9月～11月まで、全10回×2講座）</li> <li>・常陸大宮・歴史民俗資料館訪問</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性センター祭り2011への参加</li> <li>・ラジオ出演&lt;FMひたち&gt;:センター祭りの告知、イベント告知</li> <li>・日立市ケーブルテレビJWAY訪問</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性応援フェア：リフレッシュ講座（全6回）</li> <li>・女性応援フェア：就活応援講座</li> <li>・ラジオ出演&lt;茨城放送&gt;:女性応援プロジェクトの紹介</li> <li>・SNS講座 with 日立女性フォーラム（11月～12月まで、全5回）</li> <li>・SNS講座 in 常陸大宮（11月末～12月まで、全7回）</li> <li>・常陸太田市役所訪問</li> <li>・テレビ出演（JWAY）「ほっとかわらばん」&lt;リフレッシュ講座&gt;、&lt;就活応援メイク講座&gt;</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ラジオ出演&lt;FMひたち、茨城放送&gt;: イベント告知</li> <li>・女性応援フェア：ビューティーサロン</li> <li>・女性応援フェア：パネル討論会「県北地区×女性ネットワーク」</li> <li>・テレビ出演（JWAY）「ほっとかわらばん」&lt;ビューティーサロン&gt;</li> </ul>
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SNS講座 in 常陸太田市役所（全3回）</li> <li>・テレビ出演（JWAY）「Go!Go!工学ガール Vol.2」</li> </ul>

本プロジェクト推進のため、定期的に各連携先との会議を行い、県北地区の地域ネットワークづくりについて検討した。

## プロジェクトの成果報告

本年度のプロジェクト活動による主な成果は以下の通りである。

### ●人脈づくり

昨年度に引き続き、地域SNS「おさんぽ」を活用している。「おさんぽ」では、登録者数を40名から60名に増やすことに成功した。さらに今年度では、ソーシャルメディアを活用した人脈づくりとして、女性応援プロジェクトのツイッターアカウントを作成し、情報交換の場として活用した。ツイッターでは現在138人からのフォローを得ており、今後更なる情報公開や人脈づくりの場としての活用を期待できる。

また、ビューティーサロンと同時開催でパネル討論会を行い、県北地区で活躍する女性7名にパネラーとして参加して頂くことができた。このパネル討論会では、多方面で活躍する女性達と、県北地区の活性化に興味を持つ参加者を結びつけることができ、地域間と世代間を超えた人脈づくりに貢献できたと考える。



「SNS講座」の様子

### ●子育て支援

昨年好評だった「親子で一緒にリフレッシュ講座」では、昨年度のアンケートから得られた様々な意見や、活動から得られた知見を活かし、実施回数を4回から6回に増やした。その結果として、全体で募集定員60名を超える応募があった。当日の参加者からの感想でもイベントに対し高評価を頂くとともに、78%以上の方々が交流できたと回答した。参加者同士でその後自発的に活動する動きもみられ、継続するつながりを作ることに成功したといえる。

課題として、ニーズに合ったイベントを提供できたが、需要数には足りていないことも実感した。アンケート結果から、「同じメンバーで定期的開催してほしい」、「話題の講座を開いてほしい」という意見を得ることができたので、今後の参考にしたい。

### ●キャリアアップ支援

地域住民・地域団体・市職員向けのSNS講座をそれぞれに行った。SNS活用の基礎から講習を行ったことで、地域で活躍する女性が、ソーシャルメディアを用いた新たな人脈づくりやネットワークの維持を実践できるようになった。さらに、「茨大の学生に親切に教えてもらえて嬉しい」等、感謝の言葉を頂き、学生と地域住民との交流ができたと考える。

また、昨年度に引き続き、大手化粧品メーカー「ALBION」から多大なご支援を頂き、マナーメイクを学ぶ「就活応援メイク講座」を開催した。アンケート結果では8割以上の参加者が「為になった」と回答した。「初めてメイクを体験し、違う自分が見つけられた」「今日教わったことを就活に活かしたい」等の声も頂き、女性の社会進出のきっかけづくりになるイベントとなった。



「女性応援フェア：ビューティーサロン、パネル討論会」の様子



「女性応援フェア：親子で一緒にリフレッシュ講座」の様子



「女性応援フェア：就活応援メイク講座」の様子

## ●外部評価

今年度は、前年度の活動を活かし、幅広い広報活動を行うことができた。茨城新聞からの取材、市報、日立ふれあい情報マガジン「ひたち」、地域情報サイト「いばナビ」へのイベント掲載等、多くの紙面で取り上げられ、イベント参加者から反響を頂くことができた。さらに今年度は、昨年度出演したラジオに加え、日立市ケーブルテレビJWAYからの取材もあり、本プロジェクトの活動を複数回に渡り番組として取り上げて頂いた。プロジェクトの活動がイベント参加者や各メディア等外部から評価されることで、茨城大学学生地域参画プロジェクトおよび女性応援プロジェクトの認知度を向上させることができたと考えている。なお、各メディアへの出演日については、以下に記す。

メディア名	掲載日・出演日時
市報	11月05日号 No.1479
ひたち	11月号
茨城新聞	12月3日、12月21日
いばナビ	10月27日～、11月18日～、12月9日～
FMひたち	10月15日、10月16日、10月29日、12月14日
茨城放送	11月13日、12月10日
JWAY	11月26日放送、11月28日放送、12月18日放送 「ほっとかわらばん」 1月15日～1月21日放送 「みんなのテレビ Go! Go! 工学ガール Vol.2」



メディア出演の様子

## ●参加者より

各イベントでは、参加者へ参加イベントや地域に関するアンケート調査をそれぞれに行った。その結果、

- ・「つながりのきっかけになりました。楽しかったです。」※1
- ・「イベントを是非継続して、つながりを深めていきたい」※2
- ・「定期的にこういった機会を設けてほしい。」※2
- ・「育児サークルの情報を知りたかったので、SNSに登録して情報収集してみようと思います。」※2
- ・「こういった機会は貴重で、とてもありがたかったです。」※1
- ・「茨大工学部の学生さんが主催と聞いて意外でした。」※1
- ・「学生さんたちのしっかりとした考えや、話を聞いて、とても驚きました。楽しく参加させて頂きました。」※2

等の回答が得られ、総じて好評であった。

※1…ビューティーサロン ペタペタアンケートより

※2…リフレッシュ講座 ペタペタアンケートより

## ●今年度得られたもの

県北地区の活性化へ向け、得られた成果を以下に記す。

今年度の目標	成果
地域住民同士の交流	・ イベント参加者同士、受講者と講師という地域住民同士を繋げる
女性のネットワークワーキング力の向上	・ ソーシャルメディア活用のネットワークづくりを促進 ⇒ 積極的、継続的な情報収集・発信が今後の課題
対象地域の広域化	・ 県北3地域でのSNS講座開講 ・ 日立市、つくば市、常陸太田市、常陸大宮市で活躍する6名の女性がパネラーとしてパネル討論会参加
地域メディアへの露出による認知度の向上	・ 新聞、広報誌、ウェブ、ケーブルテレビ等様々なメディアでの幅広い広報活動による認知度の向上
地域団体との連携イベントの実施	・ 市民団体、地域コミュニティ連携のイベント実施 ・ 多くの地域団体の協力を得てイベント開催
地域団体同士のコネクティング	・ 様々地域で活躍する女性、団体を結ぶきっかけづくりにつながる ⇒ このきっかけをどのように活かし、繋げていくかが今後の課題

## ●今後の展望

上記の活動を通じ、20代～70代の幅広い年齢層の女性累計約500名の方々と、この2年間でネットワークを広げることができた。外部との連携だけでなく、プロジェクトの内部強化も行うことができたため、工学部内における学生のヨコの広がりにも期待できる。2年で蓄積されたネットワーク、ノウハウ、参加者データをもとに、さらなる発展ができると期待している。